



## 踏實地 奈良市街全圖

記  
市街全圖  
市街全圖

### 附近精圖

近畿地方の中心  
奈良市の位置

### 目次

- 巻頭コラム  
「鷗外と裸体画」  
増野恵子(早稲田大学・跡見学園女子大学非常勤講師)
- 展示会場から
- 地域情報
- 次回展示のお知らせ  
コレクション展  
「奈良、京都の鷗外—今日オクラガアキマシタ。」
- 特集(記念対談)  
加賀乙彦(当館名誉館長)×山崎一穎(森鷗外記念館(津和野)館長)
- 展示報告
- 活動報告
- これからの催しもの
- 編集後記

「奈良市街全圖 実地踏測」和泰路屋 大正7年  
鷗外が使用していたものと同様の地図

# 鷗外と裸体画

増野恵子 (早稲田大学・跡見学園女子大学非常勤講師)

森鷗外は大正六年(一九一七)十二月に帝國博物館総長兼図書頭に、大正八年(一九一九)九月には皇室美術院の初代院長に任じられ、大正十一年(一九二二)七月に没するまでその地位にあった。前者は現在の東京国立博物館の前身であり、後者は、この新たに創設された政府による美術の保護奨励団体で、内閣に任命された美術家で構成され、展覧会の開催等の美術行政の一端を作家自身が担うことが期待されていた。いずれも文化行政の要職で、鷗外の美術・歴史に対する学識と経験を買われての任命であった。

周知のとおり鷗外は陸軍のエリート軍医としての職責を果たしつつ、生涯美術との関わりをもち続けた。洋行中に画家原田直次郎と親しく交わり、明治二年(一八八八)の帰国後は、アーネスト・フエノロサらが主張した伝統絵画偏重の奨励策に洋面を支持する立場から反駁し、また洋画の主題選択を批判した東京帝国大学教授外山正一に対し、自らが主宰する雑誌『しがらみ草紙』上で長文の反論を発表したことはよく知られる。また批評活動だけでなく、明治四〇年(一九〇七)に発足した文部省主催美術展覧会(文展)では当初から洋画あるいは彫刻の審査委員を大正七年(一九一八)まで務め、美術行政の面でも重きをなした。

鷗外が美術と深く関わったこの時代は、日本洋画の青年期でもあった。新来の表現技法である西洋画は、まず「日本において何をどのように描くべきか」が問題とされ、画家たちは模索のなかでさまざまな軌轢にさらされた。そのうち最もよく知られるのが裸体画問題であろう。西欧の美術では人体(裸体)が表現の基本となる。しかし明治以降の日本では、裸を描き、それを公衆の前に示すことは風俗を壊乱する行為とみなされた。鷗外が精力的に美術について発言を行っていた明治二十年代から三十年代初頭には、まさに裸体画を巡って作家と社会・国家が衝突した時代でもあった。これに対し鷗外はどのような態度を示したのだろうか。裸体画が社会的な問題となったのは明治三二年(一八八九)一月に『国民之友』第三十七号附録の山田美妙作「胡蝶」に付された渡辺省亭の挿絵を嚆矢とする。主人公胡蝶の裸体が描かれるが、これが『読売新聞』一月十一日の「寄書」欄の「刺笑生」の投書をきっかけに、美妙をはじめ、巖谷小波、尾崎紅葉らを巻き込む論争となった。九月には幸田露伴「風流仏」の平福穂庵による裸体の女性像が話題となり、また十一月には巷に売られる石版画が発売禁止となるなど、この年は裸体画を巡る問題が続出した。

洋行中に美術に深く親しんだ鷗外はこの事態を座視してはいなかった。「刺笑生」の批判が掲載された翌日の同欄にまつ先に反論を寄せ、着衣なら何でも上品で裸体なら何でも下品なのかと皮肉り、「コンナ先生には鎌輪ずき裸で行けやボエジー(一)」と高らかに謳った。また投書ばかりでなく、随想の形をとり、芸術が猥褻か否かは「其着想の存する所」によって判断すべきで、裸体であることだけで単純に判断すべきではないと発言し、裸体画擁護の立場を表明している



山田美妙「胡蝶」挿絵 渡辺省亭画  
『国民之友』第37号附録 国立国会図書館蔵

「猥褻」「禽蟲八句 蝶母偷蟲作子孫」。実は鷗外自身も裸体画問題と全く無関係ではなかった。明治三二年(一八九八)五月、前年十一月に発行された雑誌『美術評論』第二号が、黒田清輝(智・感・情)の写真図版を載せたかどで発禁処分を喰らうが、この雑誌は鷗外に私淑した美術評論家の大村西崖が手がけており、鷗外も毎号のように合評で参加していた。この発禁号で、鷗外は大村らとともに(智・感・情)を批評しており、そのなかで美術における裸体画のあり方に言及している。この後明治三三年(一九〇〇)には雑誌『明星』が裸体画掲載によって発禁となるだけでなく、白馬会展での裸体画展示に警察が介入する事態となり、以後美術家は展示の場での表現規制とも戦うことになる。鷗外がこの一連の規制に対し発言した形跡は今のところ知られていない。丁度小倉赴任の前でもあり、あるいは自重するところがあったのだろうか。

だがこの問題に対し、鷗外が沈黙してしまっただけではなかった。須田喜代次氏の論考によれば、大正五年(一九一六)の第十

## 展示会場から

### 鷗外の掻巻と布団

鷗外は、大正六年12月から大正十一年7月に亡くなるまで、宮内省帝室博物館総長を務めました。そして毎年11月頃、奈良にある正倉院の曝涼(びやくりょう)に立ち会いました。通常、総長が奈良で宿泊する先は宿屋でした。来客を迎え、社交の場ともなったようです。鷗外はそれを嫌い、帝室博物館主事・神谷初之助に百姓家で暮らしたいと伝えました。それに対し神谷が提案した場所が、官舎の一角でした。鷗外は大変喜んでと言います。鷗外が用意させた奈良での用品は机、食器、燃料、調味料、火鉢等、生活全般に及んでいます。布団は妻・志げが用意し、送りました。



掻巻 [100206-01]



布団 [100206-02]

「パパノトマツテキル マツシマノウチニハ木ジマクンヨリスコシチイサイヲトコノコガキマス。ソレガゴハンノオキフジニデマス。ソノイモトハアンヌコグラキデス。イモトハカゼヲヒイテセキヲシテキマシタガ、コノゴロハダンダンヨクナツタヤウデス。」  
(大正七年11月11日付 子どもへの書簡)

滞在中の食事は、松嶋夫人の用意したご飯とみそ汁、そして生卵、梅干しや奈良漬が副菜でした。この献立は、鷗外が希望したもので、副菜は用品として準備されたものでした。

当館には、鷗外が奈良の官舎で使っていたと言われる布団一組と掻巻があります。鷗外没後(鷗外は在職中に亡くなりました)、松嶋家に残された鷗外使用の布団は適宜処分するように伝えられましたが、後々まで大切に保存され、平成二年に当館に寄贈されました。

「ナラノヒトハサムガリデオトナモコドモモセナカヘマワタヲキデオトナハモウコタツニハイツテキマス。ソレニアサネパウデス。パパモハヤクオキルトヒバチガアリマセンカラ七ジハンマデネテキマス。ナンダカダンダンネパウニナリサウデス。」  
(大正七年11月24日付 子どもへの書簡)

正倉院の曝涼は、降雨を除き休み無く行われました。鷗外は毎朝、官舎から5、600メートル離れた正倉院に通い、事務室に一日座って曝涼を見守り、拝観者に対応しました。

鷗外が秋のひと時を過ごした官舎は、昭和40年10月に取り壊されました。しかし、官舎の門は残され、現在は「鷗外の門」(奈良公園内)として親しまれています。

#### 【主な参考文献】

- 「正倉院よもやま話」 松嶋順正著 学生社 昭和64年
- 「帝室博物館長としての森先生」神谷初之助著 「森博士」佐佐木信綱著
- 「近代作家追悼文集第7巻 森鷗外」ゆまに書房 平成2年再版収録
- ※鷗外筆子ども宛ての書簡は、「鷗外の遺産」第1巻 小堀鷗一郎、横光桃子編 幻戯書房 平成16年を参照し、漢字を補いました。

## 地域情報

### 小石川七福神巡り

平成28年1月1日(金)〜7日(木)

七福神巡りは、新春松の内に七福神が祀られた寺社を順に詣でる、全国的に行われている行事です。15世紀には行われていたという記録もあり、東京では江戸中期に谷中で始まってから盛んになりました。現在では、都内だけで30以上の七福神巡りが存在します。文京区では、東京メトロ茗荷谷駅から後楽園駅までの小石川地域で、平成7年から始まりました。小石川七福神巡りは、弁財天を祀る寺院が2ヶ所あるため、正確には計8ヶ所で構成されています。寺社だけでなく、マンションや商業施設(東京ドーム)の敷地内にも七福神が祀られているのが特徴です。コース周辺には、幸田露伴や石川啄木のゆかりの地もあり、文学ファンにもおすすすめ。団子坂から少し足をのびして、巡ってみてください。

#### 小石川七福神

- 深光寺(恵比寿)、徳雲寺(弁財天)、極楽寺(弁財天)、宗慶寺(寿老人)、真珠院(布袋尊)、福聚院(大黒天)、源覚寺(毘沙門天)、東京ドーム(福祿寿)



東京ドーム敷地内に祀られている福祿寿 画像提供:東京ドーム

# 展示のお知らせ

コレクション展

## 奈良、京都の鷗外——今日オクラガアキマシタ。

誰もが一度は訪れたことがある古都—奈良、京都。鷗外もまた、公務や余暇を過ごす目的で、たびたび二都を訪れています。

大正4年11月、陸軍軍医総監として大正天皇の即位の大礼に参列するため、鷗外は京都を訪れます。その折に、新聞社の依頼を受け、即位式大嘗祭とその饗宴、舞楽など大札の詳細な記録を『盛儀私記』として紙面に発表しました。大札の中休みの過ごし方はいかにも鷗外らしく、古人の墓巡り—位置や墓誌を書き留めるため、山崎間斎(金成光明寺)、織田信長父子、皆川淇園(阿弥陀寺)など14人の墓を訪れました。晩年に集中して史伝小説が生み出された背景には、鷗外がこうした考証的態度があると考えられます。

一方、大正7年から10年まで、4回の奈良滞在(出干し)に立会うためでした。ひと月ほどの滞在中、お倉の閑閑封にたずさわり、天平から千有余年の時を経て伝世した宝物を調査し、公務の合間には、その健脚で南都寺社を巡ります。こうした鷗外の奈良での日々は、日記『委蛇録』(『寧都訪古録』、短歌『奈良五十首』に残されている他、親潮楼の家族に宛てた絵葉書からもうかがい知ることが出来ます。子どもたちに伝えられた奈良の情景は、家を留守にしているパッパ(父)としての(鷗外)の眼にうつった景色でもあるのです。

正倉院の文物、寺社、墓誌、古都の街並み……鷗外の作品と愛用の地図を広げ、鷗外の「眼」と「脚」で、大正初期の奈良、京都を旅します。

期 平成27年 12月11日(金) — 平成28年 2月7日(日)  
 ※会期中の休館日 12月29日(火)・平成28年1月3日(日)、1月26日(火)

会場 文京区立森鷗外記念館 展示室2

開館時間 10時～18時(最終入館は17時30分)

観覧料 一般300円(20名以上の団体・240円)

※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同作者1名まで無料  
 ※各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

### 関連事業のお知らせ

コレクション展期間中に関連講演会を予定しております。申込方法は8頁をご覧ください。

### 「森鷗外と奈良、京都」

大正天皇の即位式への参列(大正4年)、正倉院の曝涼の立会い(大正7～10年)、公務で訪れた京都、奈良で、鷗外は古都の寺社を巡り、文物に触れる機会を得ます。『盛儀私記』(即位式の記録)、『奈良五十首』を読み解きながら、京都、奈良で鷗外が取り組んだ仕事をうかがいます。

講師 田島哲氏  
 (東京国立博物館 博物館情報課長)

日時 平成28年1月9日(土)  
 14時～15時30分

料金 無料

定員 50名事前申込制)

申込締切 平成27年12月25日(金) 必着

### ギャラリートーク

展示室2にて当館学芸員が展示解説を行います。

平成27年12月16日、  
 平成28年1月13日、27日  
 いずれも水曜日14時～(30分程度)  
 申込不要(展示観覧券が必要です)

上段 左：奈良滞在日記『寧都訪古録』より(大正7年11月) 右：『正倉院器の調査報告』(『帝室博物館学報』第2冊、帝室博物館 大正10年7月)  
下段 左：山田孝雄筆鷗外宛書簡(大正9年12月25日付) 右：鷗外筆杏奴宛絵葉書 春日大社(大正10年11月17日付)

### 特集

## 記念対談

# 加賀乙彦(当館名誉館長) × 山崎一穎(森鷗外記念館(津和野)館長)



今年、文京区立森鷗外記念館は開館3周年、島根県津和野町の森鷗外記念館は開館20周年と、それぞれ節目を迎えました。これを記念し、加賀乙彦当館名誉館長(写真左)と、津和野で館長を務める山崎一穎氏(写真右)に対談いただきました。

に興味を持たれたのですか。  
 加賀 歴史小説は晩年に集中しているので、まとまっているし、陸軍奥がないんですね。歴史の中に没頭して書いている感じがします。それを引き出したのは、やはり乃木將軍の自殺です。鷗外は、明治天皇の崩御にあたり、罪滅ぼしのような気持ちで殉死する乃木將軍の心に打たれた。

そのような心の動きは、ミュンヘン時代にバイエルン王ルードヴィヒ2世が湖で溺死したときにも見ることが出来ます。湖に上る王を精神科医のグッデンが追いかけますが、結局、王と共に死んでしまう。鷗外は二、三回その湖に行き、忠臣グッデンを吊っています。

もう一つ、彼は同じ頃、ドイツで毒麦の研究をしています。毒の作用を検証するため、自分で毒麦パンを食べて死ぬかと思うほど苦しみ、自分はエグザクトな研究のために命を捨てていると言っています。鷗外の師匠ベッテンコーファーも、コレラ菌を自分で飲むような苛烈な人でした。鷗外はそれとグッデンの殉死を考え合わせ、ドイツ人の医者の気概を感じ入ったでしょう。

山崎 鷗外のドイツ時代の経験と『阿部一族』は、時間的な隔たりがあっても、水脈のようにつながり合っていると考えておられるのですか。  
 加賀 そう思います。鷗外は知的で物静かだとされていますが、熱烈さも持っており、それゆえに帰国後は、日本の医学界にドイツでの研究成果を知らせるプロバガンダの世界に入っていきます。一方、彼には、本

水脈のようにつながる  
 ドイツ時代と『阿部一族』  
 山崎 先生の鷗外の読書体験は、どこから始まったのですか。  
 加賀 最初は『エタ・セクスアリス』でした。その後は『阿部一族』など晩年の伝記ものも読みましたし、翻訳の『即興詩人』も大好きで、あれを持ってローマに行きました。

山崎 私は歴史小説から入りました。大学で歴史を学びたかったのですが、うまくいかず文学を専攻しました。文学と歴史というのを考えたときに、鷗外の歴史小説を思い、鷗外を考えたいと思いました。『阿部一族』は組織と個の問題を扱っていると私は考えていますが、先生はどのようなところ

験し、自分で新しい発見をしていく学問だという意識がありました。  
 山崎 鷗外はドイツで、ビールの利尿作用の研究をしていますね。  
 加賀 自分であらゆる種類のお酒を飲んで利尿効果を比較し、ビールの度数にあたる4%が最も利尿効果が高いと突き止めています。これはドイツ語でしか書かれていないのですが、当時、ミュンヘンでは毒麦で家畜が次々と死んでいたし、住民たちも毒にあたって困っていたのです。ビールの強い利尿作用を利用すれば、毒を排出しやすくなるわけです。ベッテンコーファーはこの新発見を喜び、文化程度が低いと思っていた日本を見直すことになった。

### 心の飢えを満たす文学

山崎 研究の社会的背景は初めて知りませんでした。従来の鷗外研究には、衛生学者・鷗外という視点が抜けていますね。  
 加賀 屈折した時代であるのは確かでしょう。この頃、文学では『ファウスト』などの巨大なドイツ文化に迫っています。それが転回点となり、その後の歴史小説への転換を誘い出す原動力にもなっています。鷗外

は小倉時代に、官から身を引いて筆一本で立つと決意していますね。官が鷗外を手放さないので、実現は困難でしたが、鷗外の望みはいつも叶わず、世の中はままたらなという経緯として蓄積されます。  
 山崎 鷗外は医学で業績を上げながら、なぜ、心を文学で満たそうとしたのでしょうか。  
 加賀 文学は隠れ家だったのでしよう。医学で村八分になって文学に向かい、文学に取り組んでいると陸軍に戻されるなど、医学と文学を行き来している。それが彼の人生活にとつて、心の中で山を越えるために大事なことだった。

もう一つ、脚気の問題も大事です。日本軍は兵士の脚気に悩まされ、鷗外には解決が求められました。彼は原因は病原菌にあると考えましたが、いくら探しても菌は見つからない。その間、陸軍では多くの兵士が命を落としました。一方の海軍はもっと実際の、原因はどうあれ食事を改善し、患者を減らしましたが、エグザクトな医学にこだわった鷗外は食事と脚気の関係を見抜けず、二二三高地で1万人もの兵士を犠牲にしてしまおうのです。その後、鈴木海太郎がオリザニンを発見し、原因は食事だったとわかる。

彼は戦争であれだけの死傷者を出したことに罪の意識を感じていた。だからこそ乃木將軍の殉死にショックを受け、『阿部一族』のような、主君のために死んでいった人の小説を書こうと思ったのでしよう。晩年の彼の気持ちは、決して平坦ではなかったと思います。

## 『空車』が象徴するもの

山崎 先生は鷗外の『空車』について、堂々としているのに何も積んでいない空車は、自分の不満を象徴させたものと読んでいますね。私はそれとは異なる解釈をしています。日本近代文学は個を描くことから始まりましたが、鷗外は歴史小説で組織の中で個がどう自律的に生きるかを、資料に来る限り忠実に問うてきた。これが鷗外にとって、文学におけるエグザクトだったのでしょう。鷗外は人生を振り返り、若いうちから医学者として充足感のあった中で、地位や名譽へのこだわりがなかったとは言えなかった、と考えたと思います。しかし晩年、陸軍から身を引くとき、自分は何物も乗せていない空車のようにありたいと願ったのではないかと考えています。

加賀 空車は理想の投影だということですね。面白いですね。言われてみると、私の解釈は違うかもしれません。

山崎 いえ、違うというより、戦争の捉え方と関係があると思うのです。先生の『空車』の解釈には、先生の小説『帰らざる夏』に書かれていたような思いが投影されているのではないのでしょうか。私は終戦時に小学1年生でしたが、軍国思想に染まっていた主人公が敗戦後に自決する。帰らざる夏を読み、私より年長の少年たちの当時の価値観にショックを受けました。そのようなことを書かれた思いが、『空車』に重なったのでは、と感じています。



加賀 あの小説は鷗外より三島事件に反応したのですが、私は終戦時に16歳で、これまで正しいと思ってきたことが全部違っていたと落胆したのです。兵隊になることは主君の御用になるということ、明治憲法下では、それは倫理観念ではなく命題でした。だから陸軍は戦争であれだけの人を動かし、300万人が殺された。それは制度的に間違いないのではないかと。鷗外に立ち返ると、彼が自分の脚気への対応を責める気持ちは、防衛の意識が弱かったために、大勢の兵士を死なせてしまった乃木の罪の意識と通じ合うところがあり、それははっきりさせようと史伝小説に走ったと考えています。

## 時代の欠陥を見なかった 幸福な作家

加賀 鷗外は1922年に亡くなり、翌年に関東大震災が起こります。つまり、鷗外は震災を見ませんでした。これが作家鷗外の限界でもあり、特質でもあると思います。

山崎 ある意味で幸福だった。加賀 その分、彼の文学は言い過ぎかもしれませんが脆弱でもあった。鷗外の文学は福々しく、全てを作家が知っていて、作中人物はその知識の一部を分け与えられるだけ。だから物語としては安定しています。『洪江拙齋』も、洪江が死に、子どもや召使のその後の話が続いて、明治になる前ですと終わる。それは、彼は明治維新を肯定し、問題にしていけないということでもあります。でも明治維新には、よかつた半面、欠陥もあったと思うのです。

鷗外は関東大震災も見ていません。時代の激変に伴う社会や国の欠陥を意識しませんでした。幸福な小説家であり、官吏でも

## 展示報告

### 特別展 ドクトル・リントラウ——医学者としての鷗外

会期：平成27年10月3日(土)～12月6日(日)

秋の特別展は、新たな鷗外像の模索のため、鷗外の医学での足跡を辿りました。展示会は、「林太郎が学んだもの」「林太郎が取り組んだもの」「鷗外における医学と文学」の三部で構成し、鷗外森林太郎が何を学び、どんな取り組みをし、作品を執筆したのかを、振り返りました。

学びの痕跡は、林太郎の自筆資料で展示しました。丁寧に記された医学生時代のノート、また、教科書の余白には隙間なくメモやイラストが書き込まれ、医学生・林太郎の勤勉な姿が遺されていました。ドイツ留学時代の実験記録ノートの躍動感ある筆致からは、憧れの地で懸命に学ぶ青年・林太郎の情熱を感じ取ることができました。衛生学を専門とした林太郎の取り組みは、広範囲にわたっています。その中から、現在の私たちに身近な問題を選んだため紹介しました。都市計画や予防医学に結びつく発言や、衛生学を日本に浸透させるための活動など、現代にも通じる問題提起もあり、林太郎の幅広い活動に驚かれる方もいらっしゃるかもしれません。また脚気論争については、臨時脚気病調査会資料を展示し、脚気の原因究明に関わり続けた林太郎の姿勢を示しました。

作品は『魔睡』『仮面』『キタ・セクスアリス』『洪江拙齋』『伊沢蘭軒』を取り上げました。医師が登場するもの、医学的視点があるもの、陸軍退官後に書かれたものなど、「ドクトル・リントラウ」をキーワードに選びました。医学者・林太郎の人生と並行しながら鷗外作品を読むことで、林太郎の医学に対する敬意とこだわりが見えてくるようでした。反面、なぜ『鷗外』は語り継がれているのか、ということを考えさせられました。

文学に比べて鷗外の医学活動については、まだ検証されていない部分が多くあります。展示会で紹介したことは、鷗外の医業のごく一端ですがありませんが、本展がさらなる鷗外像模索の機会となりました幸いです。当館もこのたびの経験と反省を踏まえ、医学者・森林太郎についての検証は継続していきたいと思えます。最後になりましたが、本展を開催するにあたり、ご協力賜りました関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

＜展示会期間中に関連講演会を開催しました＞

「『魔睡』の時代—催眠術から霊術へ—  
講師：一柳廣孝氏(横浜国立大学教授) [写真上]

日時：10月31日(土) 14時～15時30分

「鷗外とその時代の医療」  
講師：酒井シヅ氏(順天堂大学特任教授) [写真下]  
日時：11月14日(土) 14時～15時30分



あった。明治維新については、哲学や神学がないということが最大の欠陥だと考えています。

山崎 それについて、鷗外はドイツ時代にナウマンと論争していますね。ナウマンが「日本には日本画があるのに西洋画に移行しようとするのはおかしい。固有の文化を守るべきだ」と言うのに対し、鷗外は「ヨーロッパに学ぶべきは自由と美だ」と言う。

福沢諭吉が留学で欧米の物質的な豊かさに目を向けたのに対し、その15、16年後に留学した鷗外は、自由や美という唯物的でないものに魅了され、日本の近代化の中でさまざまな提言をするにあたって、自由や美の価値を認めようとした。しかし、結局それは日本の風土では生き得なかった。だから哲学も育たなかったのでしょう。

加賀 そうですね。哲学は科学の基礎になる考え方で、宗教、神の問題をいかに科学と融合させるかというものでもあります。日本はキリスト教時代にルネッサンスを知っていたにもかかわらず、それを切り捨てて鎖国しました。それにより独自の文化や美的感覚、自然観が発達しましたが、欧米の文化との接点は失いました。

明治維新は、そのような徳川時代の否定から出発しています。経済的には発展しましたが、死や宗教の位置づけは古いままで、長くキリスト教や他の宗教への心配りはありませんでした。鷗外の場合、徳川時代も欧米文化もよく知っており、キリスト教を知っていることを表には出しませんが、『ファウスト』の翻訳でそれを調和させるなど、宗教的な世界に勇敢に入って行きました。彼はヨーロッパの美的哲学(美学)と宗教とのハーモニーを、自分の文学の中で大事にした。だから彼の文学は美しく、崩れないんです。

## 活動報告

### 秋の記念館を彩ったイベントたち

11月13日、ダンス企画「おやつテーブル」によるダンスパフォーマンス「鷗外GHS」を開催しました。

「おやつテーブル」は20代から60代の年齢も芸術も様々な女性メンバーからなるダンスパフォーマンスグループで、日常に潜む「ダンス的なもの」に触発されながら、旧個人宅や、日本家屋等で活動しています。



今回当館で公演するにあたり、鷗外作品や関係書籍を通して、鷗外の家族や作品の中の女性たちと出会い、鷗外と家族が暮らした「観潮楼」跡に建

つ当館の空間に、彼女たちの生活が滲んで残っているように感じたと、「おやつテーブル」主宰まえたまなみ氏は言います。それはまた、明治、大正、昭和を生きた、自身の曾祖母や祖母の暮らしや感情とも重なり、鷗外をめぐる女性たちがリアルに立ち上がってきたそうです。

そして4人の女性の物語「鷗外GHS」がうまれました。



しかし、彼は地獄を見ていません。日清・日露戦争に関係していますが、勝利したこともありません。それに対して、我々は戦争で地獄を見て、敗戦国の立場に落ちました。その我々から見ると、鷗外は震災も世界大戦も敗戦も知らず、なんて幸福だったかと思えます。

山崎 美学と宗教のハーモニーに少し亀裂が入るのが、『阿部一族』ですね。加賀 そうですね。『阿部一族』では鷗外の文学が亀裂から少し外に出て、『洪江拙齋』では完全に外に出ていますね。

山崎 この視点から鷗外を論じたものはこれまでありませんでした。今回、新しい鷗外像をいくつか示すことができたと思います。有難うございました。

### 加賀乙彦 かが・おとこ

昭和4年東京生まれ。小説家、医学博士(精神科)。昭和28年、東京大学医学部を卒業。精神医学、犯罪学を専攻し病院、刑務所勤務の後、昭和32年から3年間フランスに留学。東大附属病院精神科助手、東京医科歯科大学犯罪心理学研究室助教授を経て、昭和44年から同54年まで上智大学教授。著書に、『フランドルの冬』(昭和42年度芸術選奨文部大臣新人賞)、『帰らざる夏』(昭和48年、谷崎潤一郎賞)、『宣告』(昭和54年、日本文学大賞)、『永遠の都』(平成9年度芸術選奨文部大臣賞)、『雲の都』(平成24年、毎日出版文化賞特別賞)など。平成24年、文京区立森鷗外記念館名誉館長に就任。

### 山崎一類 やまざき・かずひで

昭和13年、長野県生まれ。博士(文学)。早稲田大学教育学部国語国文学科を卒業。千葉県立船橋高校教師として夜間定時制課程に8年間勤務する。この間、早稲田大学大学院文学研究科修士課程、博士課程で学ぶ。昭和45年、学校法人跡見学園女子大学文学部国文学科の専任講師(日本近代文学)となる。助教、教授を経て、10年余学長を務め、平成21年より同大学理事。森鷗外記念会顧問、森鷗外記念館(津和野)館長、公益財団法人日本近代文学館理事(文学館担当)、全国文学館協議会会長など。著作に、『森鷗外 明治人の生き方』(平成12年)、『森鷗外 国家と作家の狭間で』(平成24年)など。

自身のお婆様

が愛用していたという着物や、打掛を身に着けた、「おやつテーブル」のメンバー4人が庭園、エントランス、2階休憩室、地下1階導入展示室等館内各



所に現れて踊り、参加者は館内を移動しながら鑑賞していききました。鷗外が好んで食べたという饅頭茶漬や、長女・茉莉の好物だったチョコレートなど、森家の「おやつ」にまつわるエピソードも盛り込まれ、4人の姿が、鷗外家の女性たちと重なります。平成のパフォーマンス4人を通して、鷗外をめぐる女性たちの営みやその時代が、現代の私たちに繋がった1時間でした。

このほか、今年もエントランスやカフェ等の無料エリアに現代美術作品を展示する「森鷗外記念館で現代アート! Voice 利那」よ、止まれ、お前はいかにも美しいから」を10月3日から12月6日まで開催しました。11月6日から8日の3日間は開館時間を20時まで延長し、金大偉氏の映像作品を外壁に投影する「空間映像インスタレーション Landscape of Illusion and Colors—夢幻と色彩の風景」を行いました。(8日は雨のため館内エントランスにて実施)

さらに6日は金大偉氏の音楽ライブ「Dream of Neo Asia」7日は、「森鷗外記念館で現代アート!」のディレクターであり、リコーダー奏者でもある倉林靖氏とチェンバロ奏者渡辺玲子氏による演奏「リコーダーとチェンバロのデュオ」ドイツ・パロック音楽から明治まで」をいずれもエントランスで実施。様々な芸術表現が秋の記念館を彩りました。

# これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせ下さい。

★応募多数の場合抽選とさせていただきます。  
★有料のプログラム参加者はイベント当日にかぎり、展覧会観覧料が免除となります。  
★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

**1月9日(土) 14:00～15:30**  
展示関連講演会  
**「森鷗外と奈良、京都」**  
講師：田良島哲氏  
(東京国立博物館 博物館情報課長)  
会場：講座室 料金：無料  
定員：50名 申込締切：12月25日(金)

**1月19日(火) 10:00～17:30**  
**鷗外誕生日記念行事◎**  
鷗外の154回目のお誕生日を記念して、無料で展覧会を観覧いただけます。

**1月30日(土) 14:00～16:00**  
文の京ワークショップ 親子向け推奨  
**「カリグラフィーでイニシャルのしおり&タグをつくる」**  
講師：池谷めぐみ氏(カリグラファー・MAKIKOオフィス)  
料金：大人800円/中学生以下500円(カリグラフィーマーカー1本付)  
会場：講座室 定員：15名 申込締切：1月15日(金)

**2月11日(木・祝) 14:00～15:30**  
鷗外誕生日記念講演会「鷗外とロシア文学」  
講師：亀山郁夫氏(名古屋外国語大学学長)  
会場：講座室 料金：800円 定員：50名 申込締切：1月27日(水)  
翻訳家としても活躍されている亀山氏に鷗外のロシア文学の受容と翻訳についてお話ししていただきます。

**2月28日(日) 14:00～15:30**  
新・観潮楼歌会 文京建築探訪  
**「森鷗外記念館の設計、その手法」**  
講師：陶器二雄氏(建築家)  
会場：講座室 料金：500円 定員：50名 申込締切：2月13日(土)  
当館を設計した建築家、陶器二雄氏に、建築の見方や、当館の設計にまつわるお話をさせていただきます。

**3月5日(土) 14:00～16:30**  
新・観潮楼歌会  
**「五人の歌人による公開歌会Ⅲ」**  
講師：小島なお氏、坂井修一氏、千葉聡氏、永井祐氏、東直子氏  
会場：講座室 料金：500円 定員：50名 申込締切：2月19日(金)  
今回で3回目を迎える、公開歌会。5人の歌人による歌会を楽しみながら、選歌という形で全員が歌会に参加します。

**3月12日(土) 13:00～16:00**  
鷗外をめぐる散策  
**「春の隅田川」**  
—鷗外ゆかりの地を訪ねる—  
講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事)  
料金：1000円(交通費・保険料込) 定員：15名  
会場：隅田川界限 申込締切：2月26日(金)  
春の隅田川を鷗外ゆかりの場所を求めて散策します。※雨天決行(但し、雨量によりコースの変更および中止する場合があります)

**3月20日(日) 14:00～15:30**  
朗読会  
**「『半日』を読む」**  
講師：広瀬修子氏(元NHKアナウンサー)  
会場：講座室 料金：1000円  
定員：50名 申込締切：3月4日(金)  
鷗外の自宅「観潮楼」を舞台に描かれた『半日』の朗読を、観潮楼跡に建つ当館でお楽しみいただけます。

## ◆◆文京区立森鷗外記念館イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで、親子プログラムおよび親子向け推奨のプログラムに関しては親子一組につき1通)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①往復はがき** 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②Eメール** 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@morigai-kinenkan.jpまでご応募ください。※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

## 編集後記

文京区内にある博物館、美術館、庭園等の施設を結ぶ、文の京ミュージアムネットワーク(通称・文京ミュージアムネット)では、毎年冬に合同イベント「文京ミュージアムフェスタ」を開催しています。文京シビックホール1階にあるギャラリーシビックを会場とし、36の加入施設から有志の施設が集まって、体験コーナーや展示等のブースを出しています。各施設を訪ねなければできないようなことが、一箇所で気軽に体験できることもあり、毎年数百名の方が来場しています。1日限りの贅沢なイベントです。

当館も開館以来文京ミュージアムフェスタに参加しており、館の活動や所蔵資料について紹介する展示を行っています。毎年展示内容を変えて参加していますので、これからは是非ご来場ください。

※平成27年度の文京ミュージアムフェスタは、12月17日(木)に終了しました。

11号5頁掲載の「鷗外と津和野」内、森鷗外記念館(津和野町)基本情報におきまして誤りがありました。正しくは左記の通りです。

(誤) 島根県鹿島郡  
(正) 島根県鹿足郡

訂正してお詫び申し上げます。

## 交通案内

- 電車をご利用の場合
    - ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
    - ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
    - ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
  - バスをご利用の場合
    - ・都バス 草63系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
    - ・都バス 上58系統「団子坂下」下車 徒歩5分
    - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511  
URL: <http://morigai-kinenkan.jp>



文京区立  
**森鷗外記念館**  
Mori Ogai Memorial Museum

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)  
休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、  
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等